

設置計画の概要

事項	記入欄																																																																												
事前相談事項	事前伺い																																																																												
計画の区分	研究科の専攻の設置																																																																												
フリガナ	コカクダクガクシヨク ヤマガチダイガク																																																																												
設置者	国立大学法人 山口大学																																																																												
フリガナ	ヤマガチダイガクダクイン																																																																												
大学の名称	山口大学大学院 (Graduate School of Yamaguchi University)																																																																												
新設学部等において養成する人材像	<p>《医学博士課程》 【医学系研究科医学専攻】 ①養成する人材 先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、知的財産に関する知識及びトランスレーショナルリサーチの能力を身につけ、自らの研究成果を実用化まで発展させることができる医療人を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・専門分野における高度な専門知識・技術 ・専門分野に関連した分野における幅広い専門知識・技術 ・知的財産に関する知識 ・医療の進展に応じたトランスレーショナルリサーチを実施できる能力</p> <p>③修了後の進路 ・病院において指導的立場に立つ医師 ・俯瞰的・複合的な視点から地域医療における問題点を発見し、自ら解決を図れる医師 ・基礎医学研究者 ・臨床医学研究者</p>																																																																												
既設学部等において養成する人材像	<p>《医学博士課程》 【医学系研究科システム統御医学系専攻】 ①養成する人材 生体や医療環境をシステムという視点でとらえた教育研究を行い、高度先進医学医療や人間性豊かな医療を担う人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・専門分野における高度な専門知識・技術 ・人々の健康を自然環境、社会環境の中で把握し、保健・医療・福祉・社会といった総合的な立場からの問題解析を行い、解決の方策を導き出せる能力 ・自立した基礎医学研究者、臨床医学研究者としての研究能力</p> <p>③修了後の進路 ・病院において指導的立場に立つ医師 ・基礎医学研究者 ・臨床医学研究者</p> <p>【医学系研究科情報解析医学系専攻】 ①養成する人材 分子、細胞レベルから臓器、個体、社会に至るまでを情報という観点から統合的にとらえ、医学、医療に貢献できる人材を養成する。</p> <p>②習得させる能力 ・専門分野における高度な専門知識・技術 ・生体を細胞レベルから器官レベルにおいて、正常と病的変動の違いを病理学的手段及び放射線などの画像診断により病態を究明し、診断法や治療法の開発に貢献できる能力 ・自立した基礎医学研究者、臨床医学研究者としての研究能力</p> <p>③修了後の進路 ・病院において指導的立場に立つ医師 ・基礎医学研究者 ・臨床医学研究者</p>																																																																												
新設学部等において取得可能な資格	なし																																																																												
既設学部等において取得可能な資格	なし																																																																												
新設学部等の概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">新設学部等の名称</th> <th rowspan="2">修業年限</th> <th rowspan="2">入学定員</th> <th rowspan="2">編入学定員</th> <th rowspan="2">収容定員</th> <th colspan="2">授与する学位等</th> <th rowspan="2">開設時期</th> <th colspan="3">専任教員</th> </tr> <tr> <th>学位又は称号</th> <th>学位又は学科の分野</th> <th>異動元</th> <th>助教以上</th> <th>うち教授</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">医学系研究科 [Graduate School of Medicine] 医学専攻 (医学博士課程) [Medicine]</td> <td rowspan="5">4</td> <td rowspan="5">33</td> <td rowspan="5">-</td> <td rowspan="5">132</td> <td rowspan="5">博士 (医学)</td> <td rowspan="5">医学関係</td> <td rowspan="5">平成28年 4月</td> <td>医学系研究科システム統御医学系専攻</td> <td>40</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>医学系研究科情報解析医学系専攻</td> <td>49</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>医学系研究科応用工学系専攻</td> <td>22</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>医学系研究科応用分子生命科学系専攻</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>新規採用</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>135</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			学位又は称号	学位又は学科の分野	異動元	助教以上	うち教授	医学系研究科 [Graduate School of Medicine] 医学専攻 (医学博士課程) [Medicine]	4	33	-	132	博士 (医学)	医学関係	平成28年 4月	医学系研究科システム統御医学系専攻	40	9	医学系研究科情報解析医学系専攻	49	12	医学系研究科応用工学系専攻	22	6	医学系研究科応用分子生命科学系専攻	14	3	新規採用	10	9	計	135	39																																		
新設学部等の名称	修業年限						入学定員	編入学定員		収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員																																																															
		学位又は称号	学位又は学科の分野	異動元	助教以上	うち教授																																																																							
医学系研究科 [Graduate School of Medicine] 医学専攻 (医学博士課程) [Medicine]	4	33	-	132	博士 (医学)	医学関係	平成28年 4月	医学系研究科システム統御医学系専攻	40	9																																																																			
								医学系研究科情報解析医学系専攻	49	12																																																																			
								医学系研究科応用工学系専攻	22	6																																																																			
								医学系研究科応用分子生命科学系専攻	14	3																																																																			
								新規採用	10	9																																																																			
計	135	39																																																																											
既設学部等の概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">既設学部等の名称</th> <th rowspan="2">修業年限</th> <th rowspan="2">入学定員</th> <th rowspan="2">編入学定員</th> <th rowspan="2">収容定員</th> <th colspan="2">授与する学位等</th> <th rowspan="2">開設時期</th> <th colspan="3">専任教員</th> </tr> <tr> <th>学位又は称号</th> <th>学位又は学科の分野</th> <th>異動先</th> <th>助教以上</th> <th>うち教授</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">医学系研究科</td> <td rowspan="5">4</td> <td rowspan="5">14</td> <td rowspan="5">-</td> <td rowspan="5">56</td> <td rowspan="5">博士 (医学)</td> <td rowspan="5">医学関係</td> <td rowspan="5">平成18年 4月</td> <td>医学系研究科医学専攻</td> <td>40</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>退職</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>45</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>医学系研究科医学専攻</td> <td>49</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>退職</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>54</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">応用工学系専攻 (博士後期課程) (廃止)</td> <td rowspan="3">3</td> <td rowspan="3">14</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">42</td> <td rowspan="3">博士 (工学)</td> <td rowspan="3">学際領域</td> <td rowspan="3">平成13年 4月</td> <td>医学系研究科医学専攻</td> <td>22</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>22</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>医学系研究科医学専攻</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">応用分子生命科学系専攻 (博士後期課程) (廃止)</td> <td rowspan="3">3</td> <td rowspan="3">12</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">36</td> <td rowspan="3">博士 (生命科学, 学術)</td> <td rowspan="3">学際領域</td> <td rowspan="3">平成18年 4月</td> <td>医学系研究科医学専攻</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			学位又は称号	学位又は学科の分野	異動先	助教以上	うち教授	医学系研究科	4	14	-	56	博士 (医学)	医学関係	平成18年 4月	医学系研究科医学専攻	40	9	退職	5	4	計	45	13	医学系研究科医学専攻	49	12	退職	5	5	計	54	17	応用工学系専攻 (博士後期課程) (廃止)	3	14	-	42	博士 (工学)	学際領域	平成13年 4月	医学系研究科医学専攻	22	6	計	22	6	医学系研究科医学専攻	14	3	応用分子生命科学系専攻 (博士後期課程) (廃止)	3	12	-	36	博士 (生命科学, 学術)	学際領域	平成18年 4月	医学系研究科医学専攻	14	3	計	14	3	計	14	3
既設学部等の名称	修業年限						入学定員	編入学定員		収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員																																																															
		学位又は称号	学位又は学科の分野	異動先	助教以上	うち教授																																																																							
医学系研究科	4	14	-	56	博士 (医学)	医学関係	平成18年 4月	医学系研究科医学専攻	40	9																																																																			
								退職	5	4																																																																			
								計	45	13																																																																			
								医学系研究科医学専攻	49	12																																																																			
								退職	5	5																																																																			
計	54	17																																																																											
応用工学系専攻 (博士後期課程) (廃止)	3	14	-	42	博士 (工学)	学際領域	平成13年 4月	医学系研究科医学専攻	22	6																																																																			
								計	22	6																																																																			
								医学系研究科医学専攻	14	3																																																																			
応用分子生命科学系専攻 (博士後期課程) (廃止)	3	12	-	36	博士 (生命科学, 学術)	学際領域	平成18年 4月	医学系研究科医学専攻	14	3																																																																			
								計	14	3																																																																			
								計	14	3																																																																			
【備考欄】	<p>・入学定員の変更 (改組前) (改組後) 医学系研究科 医学系研究科 医学博士課程 医学博士課程 システム統御医学系専攻 入学定員 14名 医学専攻 入学定員 33名 情報解析医学系専攻 入学定員 16名 博士後期課程 応用工学系専攻 入学定員 14名 応用分子生命科学系専攻 入学定員 12名</p> <p>・大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施</p>																																																																												

教育課程等の概要(事前伺い)

(医学系研究科医学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	研究者行動規範特論	1前	1			○			1						兼2 兼2 兼2 兼2 ※演習, オムハス オムハス オムハス -
	知的財産特論	1後	1			○			1						
	サイエンティフィック・ライティング	1前		1		○			1						
	プレゼンテーション特論	1後		1		○			1						
	最先端医学研究科目	1~4通	2			○			39						
	医学共通基礎科目	1・2通		2		○			15						
	医学倫理学特論	1・2通		2		○			1						
	トランスレーショナルリサーチ特論	1前・後	2			○			6						
	トランスレーショナルリサーチ演習	4通	2				○		6						
	学外特別研修	1・2・3前・後		2~6			○		39						
小計(10科目)	-	-	8	8~12	0	-	-	39	0	0	0	0	兼8	-	
基礎医学系科目群	器官解剖学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	
	器官解剖学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	
	機能神経解剖学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1		2	1		※演習, オムハス	
	機能神経解剖学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1		2	1		※演習, オムハス	
	生体機能分子制御学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1		1		※演習, オムハス	
	生体機能分子制御学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1		1		※演習, オムハス	
	システム神経科学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1			3		※演習, オムハス	
	システム神経科学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1			3		※演習, オムハス	
	プロテオーム・蛋白機能制御学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
	プロテオーム・蛋白機能制御学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
	医化学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
	医化学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
	分子薬理学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
	分子薬理学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
	病理形態学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1		2	1		※演習, オムハス	
	病理形態学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1		2	1		※演習, オムハス	
	分子病理学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	
	分子病理学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	
	ゲノム・機能分子解析学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	
	ゲノム・機能分子解析学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	
免疫学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1			3		※演習, オムハス		
免疫学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1			3		※演習, オムハス		
医学教育学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1				※演習, オムハス		
医学教育学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1				※演習, オムハス		
社会医学系科目群	環境保健医学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1		1	1		※演習, オムハス	
	環境保健医学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1		1	1		※演習, オムハス	
	環境統御健康医学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1		1	1		※演習, オムハス	
	環境統御健康医学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1		1	1		※演習, オムハス	
	法医・生体侵襲解析医学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
	法医・生体侵襲解析医学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1	1	1		※演習, オムハス	
臨床医学系科目群	消化器病態内科学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1	1	2		※演習, オムハス	
	消化器病態内科学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1	1	2		※演習, オムハス	
	器官病態内科学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1	1	2		※演習, オムハス	
	器官病態内科学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1	1	2		※演習, オムハス	
	呼吸器・感染症内科学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1					※演習	
	呼吸器・感染症内科学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1					※演習	
	病態制御内科学特論Ⅰ	1・2前		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	
	病態制御内科学特論Ⅱ	1・2後		2		○			1	1		2		※演習, オムハス	

専門科目	臨床医学系科目群	神経内科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1	※演習, オムハス					
		神経内科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1	※演習, オムハス					
		高次脳機能病態学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	2	※演習, オムハス					
		高次脳機能病態学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	2	※演習, オムハス					
		小児科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	2	※演習, オムハス					
		小児科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	2	※演習, オムハス					
		器官病態外科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1		※演習, オムハス					
		器官病態外科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1		※演習, オムハス					
		消化器・腫瘍外科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1	2	※演習, オムハス				
		消化器・腫瘍外科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1	2	※演習, オムハス				
		整形外科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		整形外科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		皮膚科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		皮膚科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		泌尿器科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		泌尿器科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		眼科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1	2	※演習, オムハス				
		眼科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1	2	※演習, オムハス				
		耳鼻咽喉科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		耳鼻咽喉科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		放射線医学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1		1	2	※演習, オムハス				
		放射線医学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1		1	2	※演習, オムハス				
		放射線治療学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1				※演習				
		放射線治療学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1				※演習				
		産科婦人科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		産科婦人科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		麻酔・蘇生・疼痛管理学的特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		麻酔・蘇生・疼痛管理学的特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		脳神経外科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		脳神経外科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	2		※演習, オムハス				
		歯科口腔外科学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		歯科口腔外科学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		臨床検査・腫瘍学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		臨床検査・腫瘍学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		救急・総合診療医学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		救急・総合診療医学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1	1	1		※演習, オムハス				
		医療情報判断学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1				※演習				
		医療情報判断学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1				※演習				
		臨床薬理学特論Ⅰ	1・2前	2	○	1				※演習				
		臨床薬理学特論Ⅱ	1・2後	2	○	1				※演習				
		小計 (78科目)	—	0	156	0	—	39	28	15	53	0	0	—
		特別研究	1~4通	8			○	39	28					
		合計 (89科目)	—	16	164-168	0	—	39	28	15	53	0	兼8	—
		学位又は称号	博士 (医学)			学位又は学科の分野		医学関係						

I 設置の趣旨・必要性

1. 設置の背景

(1) 山口県における医師の現状と地域ニーズ

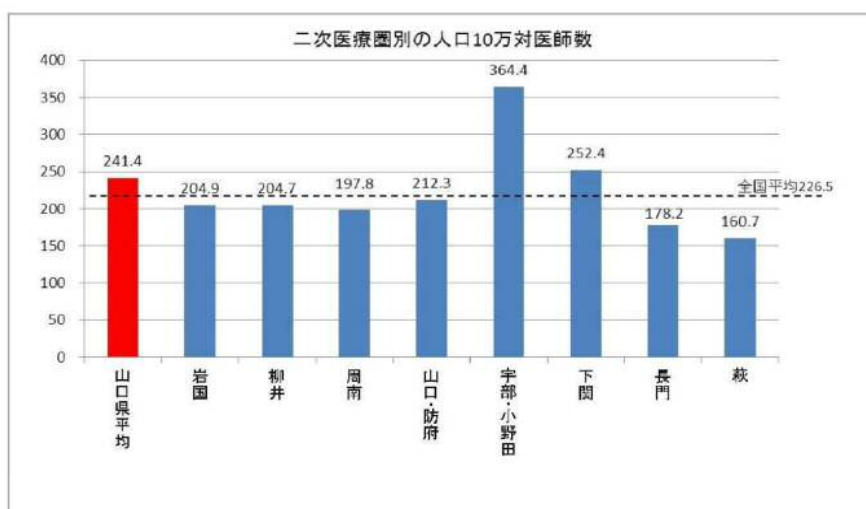
山口大学医学部附属病院においては、県内唯一の特定機能病院として、高度先進医療を推進しており、平成12年、国立大学病院では全国に先駆けて高度救命救急センターに指定され、平成23年には、山口県と連携してドクターヘリを運営し山口県内はもとより近県の救急搬送を行い、早くから救命救急にも取り組んでいる。平成19年に山口県がん診療連携拠点病院、平成21年に山口県肝疾患連携拠点病院に指定され、また、附属病院が総合周産期母子医療センターに指定され、地域医療に貢献している。

しかし、山口県の「二次医療圏別の人口10万対医師数」は、山口大学医学部附属病院や下関市立病院及び下関医療センターの規模の大きい公立の病院を有する「宇部・小野田医療圏」及び「下関医療圏」を除き、8圏域中6圏域が全国平均を下回っている。

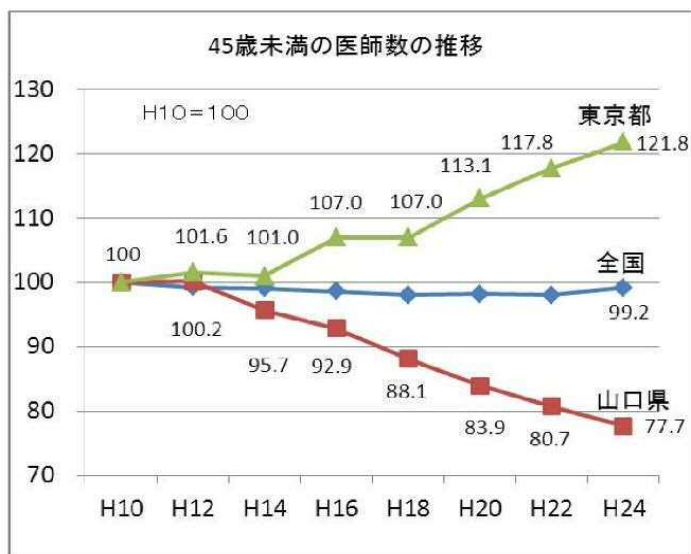
「長門医療圏」及び「萩医療圏」には、救命救急センターや周産期母子医療センターがなく、県北部と南部では、医師不足及び施設不足という地域偏在が生じている。また、「45歳未満の若手医師」は、平成10年度を100%すると平成24年には77.7%にまで大幅に減少しており、医師不足に加え、医師の高齢化が進んでいる。

山口県で唯一の医師養成機関である本学には、医師の山口県への定着率の向上に加え、高度化・多様化する医学・医療の分野において、生涯にわたり最先端の知識・技術を追求し、地域医療の現場や新たな医療技術の開発や医療水準の向上に貢献することができる医療人の養成、すなわち、大学院教育において高度な専門性ととも「問題探索能力と解決能力」を身につけた医療人の養成が求められている。

○二次医療圏別の人口10万対医師数（山口県ホームページ：山口ドクターネットより）



○45歳未満の若手医師数の推移



(2) これまでの大学院改革に関する検証

医学系研究科は、平成13年度に医学分野と工学分野が融合した「応用工医学系専攻(博士前期+後期課程)」を新設、平成18年度に医学分野の4専攻を「システム統御医学系専攻(医学博士課程)」及び「情報解析医学系専攻(医学博士課程)」に再編し、医学分野、工学分野、理学分野及び農学分野が融合した「応用分子生命科学系専攻(博士前期+後期課程)」を新設し、また、看護・医療検査技術の教育研究を推進する「保健学専攻(博士前期課程：平成17年設置、博士後期課程：平成19年設置)」の5専攻から構成される学際的な研究科である。

平成23年4月に、これまでの大学院改革について検証を行うため、医学系研究科全教員に対しアンケート調査を実施した。研究面では、「応用医工学系専攻」及び「応用分子生命科学系専攻」を設置したことで、医療福祉機器の開発等を行うベンチャー企業（株式会社医療福祉工学研究所）の立ち上げや文部科学大臣表彰を受けた“自由降下式救命艇”の開発など、分野間の連携・融合が進み、トランスレーショナルリサーチにより優れた研究成果が生み出されているとの意見が多く見られた。教育面では、理学系、工学系及び農学系の学生が医学を学ぶことで製薬会社や医療機器メーカーなどへ就職先の幅が広がっているなど評価する意見がある一方、医学系の学生にとっては、「学部と大学院の教育内容の乖離（連続性の欠如）」、「医学博士課程と博士前期・後期課程に分かれることによるキャリアパスの複雑化」、「医学を学んできた証である「博士（医学）」を取得できないことによる進学へのモチベーションの低下」などを問題視する意見もあった。また、医師免許を持つ「応用医工学系専攻」及び「応用分子生命科学系専攻」の学生の就職先を調査では、修了生全員が医師（平成21年度～平成25年度修了生57名）になっており、その多くが山口県に定着し、医学博士課程の2専攻（システム統御医学系専攻、情報解析医学系専攻）とともに地域医療に大きく貢献していることが明らかとなった。

(3) 山口大学医学分野の役割

平成24年度から平成25年度に行われた「ミッションの再定義」において、山口大学の医学系分野の役割として以下のとおり掲げている。

【ミッションの再定義より抜粋】

肝臓再生療法の開発をはじめとする先進医療の開発など、基礎医学、臨床医学の各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。特に、社会的に要請が高い基礎医学分野の研究や橋渡し研究、臨床研究が行える人材育成を積極的に行う。

2. 改組の趣旨

(1) 改組の方針

「応用医工学系専攻」及び「応用分子生命科学系専攻」の設置による教育研究の成果、山口県における医師の現状と地域ニーズ及びミッションの再定義に掲げた山口大学の医学分野の役割を踏まえて、以下の方針で改組を行うこととした。

- 基礎医学及び社会医学と臨床医学の分野の橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)を推進し、高度な医療を提供できる医療人・研究者を養成する。
- 卒前教育及び卒業後研修から大学院におけるキャリアパスを明確にした教育研究体制を構築する。
- 地域医療に貢献し、変化する最先端の医療技術に対応できる問題探索能力と解決能力を身につけた高度な医療人を養成する。

(2) 改組の概要

上述の改組の方針を基に、学部・研究科再編等会議において検討を重ねた結果、医学系の学生に対して医学に特化した教育を実施するため、医学博士課程の2専攻（システム統御医学系専攻、情報解析医学系専攻）と博士前期・後期課程の2専攻（応用医工学系専攻、応用分子生命科学系専攻）の4専攻を医学専攻（医学博士課程）の1専攻に統合する。

(3) 医学専攻において養成する人材

医学専攻においては、以下に示す人材を養成する。

【医学専攻において養成する人材】

先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、知的財産に関する知識及びトランスレーショナルリサーチの能力を身につけ、自らの研究成果を実用化まで発展させることができる医療人を養成する。

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 教育課程編成の考え方

前述の人材を養成するため、医学博士課程の2専攻（システム統御医学系専攻、情報解析医学系専攻）と博士後期課程の2専攻（応用医工学系専攻、応用分子生命科学系専攻）の4専攻を医学専攻（医学博士課程）の1専攻に統合し、研究科長のガバナンスの下、以下の統一した能力を身に付けることを目的とした教育課程を編成する。

- ・専門分野における高度な専門知識・技術
- ・専門分野に関連した分野における幅広い専門知識・技術
- ・知的財産に関する知識
- ・医療の進展に応じたトランスレーショナルリサーチを実施できる能力
- ・自立した基礎医学研究者、臨床医学研究者としての研究能力

なお、将来のキャリアパスに応じた専門知識・技術を身に付けるため、以下のコースを設ける。

【基礎・社会医学コース】

解剖学・病理学・生化学等の基礎医学系分野および法医学・公衆衛生学・衛生学の社会医学系分野を対象とし、基礎研究による難治性疾患の病態や国民の健康・生活に生じる問題と社会との関わりを解明するコースであり、基礎医学分野と社会医学分野間で連携を図り、次世代の基礎医学研究者および社会医学研究者を養成する。

【臨床医学コース】

内科学・外科学等の臨床医学系分野を対象とし、病気の診断や治療の技術を研究するコースであり、臨床医学分野間で連携を図り、研究マインドを持った医師を養成する。

科目区分として、医学専攻の学生に共通に必要なとされる能力を身に付ける「専攻共通科目」、各自の専門分野及び関連分野の知識・技術を修得する「専門科目」及び研究計画を推進する「特別研究」を設置する。

(1) 専攻共通科目

「専攻共通科目」として、「研究者行動規範特論」、「知的財産特論」、「サイエンティフィック・ライティング」、「プレゼンテーション特論」、「最先端医学研究科目」、「医学共通基礎科目」、「医学倫理学特論」、「トランスレーショナルリサーチ特論」、「トランスレーショナルリサーチ演習」、「学外特別研修」の計10科目を開設し、「研究者行動規範特論」、「知的財産特論」、「最先端医学研究科目」、「トランスレーショナルリサーチ特論」、「トランスレーショナルリサーチ演習」の5科目を必修とする。

必修科目名	講義内容
研究者行動規範特論	研究不正に関する具体的事例(論文改ざん、盗用、利益相反、不正経理等)を踏まえ、「研究者の責任ある行動」として共通に認識されている規範や倫理観に基づいて研究を実践することの重要性を理解する
知的財産特論	医薬品や医療機器の開発など自らの研究成果を実用化に発展させる際に必要となる知的財産に関して、知識獲得並びに調査・分析等の実務能力の基本を学ぶ。(特許・実用新案、商標、意匠、著作権、不正競争防止法等)
最先端医学研究科目	セミナー、講演会、学会を活用し、国際的な研究交流の促進を図り、異なる研究領域の国内外の研究者との学際的な交流を促進する。
トランスレーショナルリサーチ特論	大学の基礎研究や臨床研究で生まれた研究成果を知財化及び産業化させるプロセス(知的財産権・ベンチャー・企業・行政など)を学び、プロジェクトを実際に行う際に必要となるプロジェクト・マネジメント手法を身に付ける。これらの一連の講義を通して、研究と社会を結ぶトランスレーショナルリサーチの現状と課題を学習する。
トランスレーショナルリサーチ演習	基礎系・社会系・臨床系研究者及び企業家を交え、今まで探究してきた研究成果をディベートし、臨床応用への道並びに新たな研究プロジェクトを探索する。一連の演習を通して、個々のプロジェクトの優越性や改善点を抽出し、橋渡し研究のプロセスを体験する。

(2) 専門科目

医学・医療分野については、専門の細分化、多様化、国際化が急速に進んでおり、専門とする分野の知識・技術だけでなく、関連分野を含めた幅広い知識・技術を身に付ける教育を行う必要がある。このため、「専門科目」の設定にあたっては、専門分野毎の授業内容及び科目数を精選・集約し1つの専門分野の授業科目数を減じ、関連する他分野の専門科目についても履修を必須とする。専門科目の編成にあたっては、医学・医療のニーズに対応し、医学教育学、呼吸器・感染症内科学、放射線治療学及び救急・総合診療医学分野を新たに開設するとともに、上記コースに応じた専門性を身に付けるため、「基礎医学系科目群」、「社会医学系科目群」及び「臨床医学系科目群」に区分し、コース毎に履修要件を設定する。

(3) 特別研究

4年間をかけて履修する「特別研究」においては、指導教員と相談の上で策定する研究計画を基に、問題点の発掘から具体的な研究内容の設定、遂行まで自主的に研究を遂行する。また、研究進捗状況を定期的に公開発表することで、プレゼンテーション能力やディベート能力を養い、研究計画の課題抽出及び解決法を見出し、見出した課題や解決法を基にさらに研究計画を進め、学術論文にまとめる。

2. 教育課程編成の特色

医学専攻における教育課程編成の特色として、専攻共通科目における必修科目の設定と研究計画に基づき決定する連携分野の専門科目の履修が上げられる。

専攻共通科目の中でも、近年、論文データに関する不正など研究の妥当性に対する社会的関心も高まっていることから、研究者としての自覚を促し、科学者としての倫理規範を涵養する「研究者行動規範特論」、医薬品や医療機器の開発など自らの研究成果を実用化に発展させる際に必要となり、全ての学部学生に必修化するなど本学の強み・特色となっている知的財産教育を実施する「知的財産特論」、国内外の医療分野の研究者による講義により、国際的な研究交流や学際的な交流のできる能力を身に付ける「最先端医学研究科目」の3科目と、今回の改組の特色である、基礎研究や臨床研究で生まれた研究成果を知財化、産業化させるプロセス等を学ぶ「トランスレーショナルリサーチ特論」、研究成果についてディベートを行い、個々の研究計画の優越性や改善点を抽出することで臨床応用への道や新たな研究プロジェクトを探索する「トランスレーショナルリサーチ演習」の橋渡し研究を推進する2科目を全ての学生に対して必修化し、山口大学としての特色を持たせる。なお、「トランスレーショナルリサーチ特論」及び「トランスレーショナルリサーチ演習」においては、養成する人材像で掲げた「自らの研究成果を実用化まで発展させることができる医療人」の養成に向け、企業関係者を招聘し、ニーズを見据えた企業の見地を含めた講義、演習を行うことで、トランスレーショナルリサーチの考え方や方法に加え、産業化(ベンチャー創設など)への思考を身につけさせる。

専門科目については、コース毎に履修要件を定め、将来のキャリアパスに応じた専門性を身に付けさせる。1年次には、自ら専門とする分野の「特論Ⅰ」及び「特論Ⅱ」を履修し、2年次には、指導教員と相談の上で、連携分野の特論Ⅰ・Ⅱ(研究計画によっては複数の連携分野を履修する必要あり)を履修する。

修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>大学院医学系研究科（医学博士課程）に4年以上在学し、専攻共通科目から「研究者行動規範特論（1単位）」、「知的財産特論（1単位）」、「最先端医学研究科目（2単位）」、「トランスレーショナルリサーチ特論（2単位）」「トランスレーショナルリサーチ演習（2単位）」を含む8単位以上、専門科目から8単位以上、特別研究8単位を修得し、30単位以上修得した上で、かつ学位論文（博士）の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>なお、専門科目の履修については、コースに応じ、以下のとおり履修することとする。</p> <p>【基礎・社会医学コース】 基礎医学系科目群及び社会医学系科目群の中から8単位以上を修得する。</p> <p>【臨床医学コース】 臨床医学系科目群から8単位以上を修得する。</p>	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分